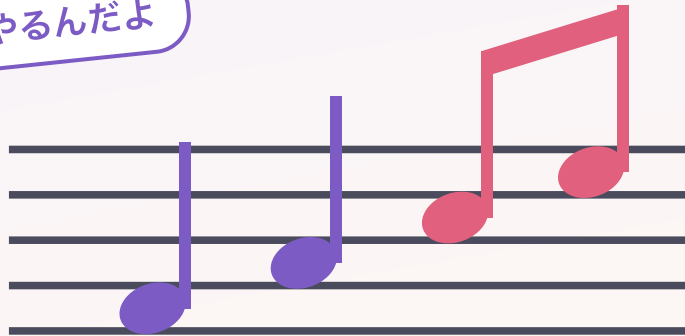


こうやるんだよ



わかった、やってみる！

教える・伝える

教えることは、もう一度学ぶこと



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

教えることを知る	3～6
教え方の工夫	7～10
相手に合わせて教える	11～14
教えることを続ける	15～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

相手のレベルを知る

相手が今できることを知ることが、教える第一歩です。

ポイント

- 相手が今どこまでできるかを知ることが、教える第一歩です。
- できることとできないことを、決めつけずに確認しましょう。
- 相手のレベルに合わない説明は、伝わりにくくなってしまいます。

やってみよう

1. 教える相手のレベルを知るために、聞いてみたい質問を書こう。

書いて覚えよう

わかりやすい言葉を選ぶと、伝わりやすくなります。

- 専門的な言葉より、わかりやすい言葉を選びましょう。
- 1度に多くを伝えず、短く区切って説明すると伝わりやすくなります。
- 相手の表情を見ながら、理解できているか確認しましょう。

1. 音楽の言葉を1つ、やさしく言いかえてみよう。

ワンポイント 「自分がはじめて習ったときはどうだったか」を思い出すと、やさしい説明のヒントになります。

実際にやって見せると、より伝わりやすくなります。

- 最初からすべてを教えようとせず、順番に少しずつ進めましょう。
- 1つできるようになってから、次のステップに進むのが基本です。
- 相手のペースに合わせることが、上達への近道になります。

1. 教えるときに、最初に伝えたいことを1つ書こう。

具体的にほめると、気持ちが伝わりやすくなります。

- できたことを、具体的にほめると伝わりやすくなります。
- 「上手だね」だけでなく、「～のところが良くなったね」と伝えましょう。
- 小さな成長も見つけてほめることが、やる気につながります。

1. 「具体的にほめる」練習として、身近な人をほめてみよう。

書いて覚えよう

直し方

前向きな伝え方をすると、直しやすくなります。

伝わりにくい直し方

「ちがう」とだけ言う

何がちがうかわからない

何度も同じ注意をする

委縮してしまう

伝わりやすい直し方

具体的に伝える

どこをどう直すかわかる

できた部分も伝える

安心して直せる

ポイント

- 直すときも、できていることを認めながら伝えると受け取りやすくなります。
- 「こうしてみよう」という提案の形で伝えると、前向きに聞いてもらえます。

書いて覚えよう

クイズやまねっこで楽しく学ぶ

身近なものにたとえて説明する

教える人も一緒に演奏する

達成感を積み重ねる

緊張をほぐす雰囲気をつくる

できたことを一緒に確認する

- 楽しさがあると、教わる側も前向きに取り組めます。
- 工夫の1つを取り入れるだけでも、雰囲気が変わります。

小さな子に教える・友だちに教える・家族に教える

相手によって、言葉や伝え方を少し変えましょう。

小さな子に

やさしく短く

短い言葉で伝える

集中力に合わせる

ほめて伸ばす

楽しさを大切にする

友だちや家族に

対等な関係で

得意・不得意を認め合う

上から目線にならない

感謝を伝え合う

気持ちよく続けられる

ポイント

- 教える相手によって、言葉や伝え方を少し変える工夫が必要です。
- どの相手に対しても、思いやりと敬意を忘れないことが基本です。

書いて覚えよう

教えるときの言葉

言葉の選び方で、教わる人のやる気は変わります。

教えるときに使いたい言葉

いいね、その調子

ここまでできたね

一緒にやってみよう

少しずつ直していこう

前向きな言葉を選ぶと、教わる人も安心して取り組みます。

ポイント

- 言葉の選び方1つで、教わる人のやる気は大きく変わります。

書いて覚えよう

- 約束の時間や場所を守ることは、教える側の基本のマナーです。
- 相手のペースを無視して急かさないようにしましょう。
- わからないことを聞かれたら、正直に「調べてみるね」と伝えてよいのです。

1. 教えるときに気をつけたいマナーを1つ書こう。

- うまくできないとき、相手の気持ちに寄りそうことが大切です。
- 「なぜできないか」より、「どうしたらできるか」を一緒に考えましょう。
- 焦らせず、相手のペースを尊重しましょう。

1. つまずいている人に、かけてあげたい言葉を書こう。

書いて覚えよう



弟にリコーダーを教えていたら、やっとドの音が出せたの。

それはうれしいね！ 教えたほうも、うれしくなるよね。

- 相手ができるようになった瞬間は、教える側にとっても大きな喜びです。
- 一緒に喜ぶことで、教わる人の自信もさらに育ちます。

教える計画

簡単な計画があると、教える時間がスムーズに進みます。

教える相手

教える内容

目標

使う工夫

Ken の例

教える相手 妹／教える内容 リコーダーの持ち方／目標 ドの音を出す／使う工夫 見本を見せてから一緒にやる

ポイント

- 簡単な計画を立てておくと、教える時間がスムーズに進みます。

書いて覚えよう

教えたことの振り返り

ふり返ると、教え方も少しずつ上達していきます。

教えた相手

うまくいったこと

難しかったこと

次に試したいこと

Emma の例

教えた相手 弟／うまくいったこと ほめながら教えたら笑顔が増えた／難しかったこと 説明が長くなってしまった／次に試したいこと もっと短く区切って伝える

ポイント

- 教えたあとにふり返ると、自分の教え方も少しずつ上達していきます。

書いて覚えよう

- 教えることは、一度きりで終わるものではありません。
- くり返し関わることで、相手との信頼関係も深まっていきます。
- 伝え続けることが、音楽を次の世代につなぐことにもなります。

1. これからも教え続けたい相手や場面を書こう。

ここまでの内容を、自分の言葉で整理しよう。

まとめ 自分の言葉で書こう

1. 教えることで、自分にはどんな学びがありましたか。 _____
2. 教えるときに大切にしたいことを1つ書こう。 _____
3. 次にだれかに教えてみたいことは？ _____

ポイント

- 教えることは、自分の学びを深め、人とのつながりも広がってくれます。
- 少しずつでも、教える経験を積み重ねていきましょう。

書いて覚えよう

20

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

教える役と教わる役を、実際に体験してみよう。

A (教えて) まずはここを、こうやってみて

B (やってみる) こうかな？

A (ほめる) いいね、その調子！

B (質問する)

ポイント

- 教える役と教わる役を、ペアで実際に体験してみましょう。
- 立場を入れ替えることで、両方の気持ちがよくわかります。

やってみよう

1. ペアで、簡単なリズムや音を教え合ってみよう。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきを知ると、対策が立てやすくなります。

つまずき

よくあること

説明が長くなる

伝えたいことが多すぎる

できないことを責めてしまう

つい厳しくなる

相手のペースを待てない

焦ってしまう

コツ

こうしてみよう

1つずつ区切って伝える

短くまとめる

できたことをまず認める

前向きな言葉から始める

相手のペースに合わせる

急かさず待つ

ポイント

- 教える側のつまずきも、練習を重ねることで少しずつ減っていきます。

やってみよう

1. あなたが教えるときにいちばん気をつけたいことは？ _____

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

教え方の基本

☐ 相手のレベルを知る

今できることを確認すること

☐ 見本を見せる

実際にやって見せること

教える工夫

☐ ほめ方

具体的に良い点を伝えること

☐ 直し方

前向きな提案として伝えること

相手に合わせる

☐ 小さな子に教える

短くやさしい言葉で伝える

☐ つまずきに寄りそう

一緒に解決を考える

続ける

☐ 教える計画

目標と方法を決めること

☐ 伝え続ける大切さ

くり返し関わり続けること

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、教え方を人にも説明しやすくなります。

書いて覚えよう

● オ. 一緒に解決を考えること

3. 相手のペースは → (急かす / 尊重する)

家でできる練習

身近な人に少し教えるだけでも練習になります。

朝

今日教えたいことを1つ決める

練習中

説明の言葉を考えてみる

家族に

かんたんなことを教えてみる

ほめる

家族の良い点を具体的に伝える

夜

教えたことをふり返る

週末

教えた相手の様子を聞く

ポイント

- 特別な機会がなくても、身近な人に少し教えるだけで練習になります。

書いて覚えよう

発表してみよう・感想を書こう

学んだことを、実際に教える場でためしてみよう。

教えた相手

教えた内容

工夫したこと

相手の様子

Ken の例

教えた相手 妹／教えた内容 リコーダーの指使い／工夫したこと ゆっくり見本を見せた／相手の様子
少しずつできて喜んでいた

感想を3文で書こう

① 今回は、～に～を教えました。② 工夫したのは、～です。③ 教えてみて、～と感じました。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

教える力は、これからも磨いていけます。

もっと知りたい人へ

先生の教え方を
よく観察してみる

本や動画で
教え方の工夫を調べる

仲間と 教え合う機会をつくる

次のステップ

音楽を続けるコツ

教えながら自分も続ける

音楽仲間をつくる
教え合う仲間を広げる

自分の音楽を表現する
学んだすべてを生かす

ポイント

- この教材の次は「音楽を続けるコツ」。教えることも、続けることの大きな力になります。

書いて覚えよう

1. 教えるときに大切なことは？ _____
2. あなたが教えることで得たものは？ _____
3. 次に教えてみたいことは？ _____

だれかに1つ、音楽のことを教える

具体的にほめる練習をする

教えたことをふり返って書く

教え方について人に相談する

できたミッションに✓をつけよう： ☐1 ☐2 ☐3 ☐4

書いて覚えよう

教える・伝えるチャレンジ

教室の外でも、教える経験はすぐに積み重ねられます。

教えよう

身近な人に**音楽のこと**を1つ教える

ほめよう

具体的に**ほめる**言葉を使う

ふり返ろう

教えた感想を**記録**する

こたえ

L19 (例) 自分の理解が深まる／相手のペースに合わせることに教えたこと

L26 見本を見せる→ウ ほめ方→ア 直し方→イ つまづきに寄りそう→オ 教える計画→エ 2. 少しずつ伝える／できた点も伝える／尊重する

L33 (例) 相手のペースに合わせ、前向きな言葉で伝えること。

書いて覚えよう

教える・伝える (Season 10 | No.98)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。